A07 サイズの異なる水たまりへのイエカ類の定着

○砂原俊彦、茂木幹義（佐賀医科大学）、Noer Bahary Noor (Hasanuddin University)

Colonization of *Culex* mosquitoes in ground pools of different sizes.Toshihiko Sunahara, Motoyoshi Mogi (Saga Medical School) and Noel Bahary Noor
(Hasanuddin University)

1996年の中央スラウェシと北セラムの裸地における調査で、小さな水たまりほど蚊の幼虫の密度が高いことが示された。しかし、この関係が、産卵場所選択によるものなのか、捕食などの死亡率の違いによるものなのかは不明であった。

1998年、北セラムにおいて、蚊の定着率が水たまりのサイズに依存するかどうかを調べる野外実験を行ったので、その結果を報告する。

9月上旬コビソクタ灌漑事務所敷地内に大きさの異なる3種類の穴を作り、地下水で満たした（大：1×1m4個；中：40×40cm4個；小：15×15cm8個）。その後5日間イエカの卵塊をカウントした。3種類のサイズの水たまりでの総卵塊数は大：中：小=81：14：23であった。密度に換算すると1㎡あたり大：中：小=81：87.5：1022となり、イエカ類の成虫が産卵場所として小さな水たまりを選択することが示唆された。

A08 コガタハマダラカ *Anopheles minimus* complexの系統学的研究

ータンパク多型とゲノムDNA塩基配列の比較から見た近縁関係

沢辺京子[○]（産業医大・寄生虫学・熱帯医学）、高木正洋・津田良夫（長崎大・熱研）、Pradya Somboon (Chiang Mai University, Thailand)A systematical study on *Anopheles minimus* complex from the Southeast Asian countries : Analyses by protein polymorphism and alignments of genom DNA

Sawabe K., Takagi M., Tsuda Y. and Somboon P.

沖縄県八重山群島に生息するコガタハマダラカ *Anopheles minimus* は東南アジア全域に広く分布し、日本以外のこれらの地域では今なお重要なマラリア媒介蚊である。本種は形態学的な違いから種内にいくつかのformを持つことが知られており、その遺伝的背景を明らかにすることは分類学的に有益であるばかりでなく、この蚊のマラリア媒介能を検討する上にも重要な情報となるであろう。演者らは98年の南日本支部大会で、18遺伝子座におけるタンパク多型の分析から、東南アジア4ヶ国6地点で採集・継代された8系統のコガタハマダラカは、中華人民共和産 (Y-F, Y-L, GX-L)、インドネシア共和国 (LB) とタイ国産 (CM)、沖縄県産 (ISG-93, ISG-94, IRO-94) の採集地の遠近によって3つのグループに分けられたと報告した。次いで各系統の28S rDNA D3領域380bpの塩基配列を比較したところ、form A (Y-F, CM, LB, PK, CM4.2)、form B (GX-L)、form E (ISG-93, ISG2.1) のそれぞれのグループでクラスターを作り、形態学的な分類に適合した結果を得たことをここに報告する。